

2010年 12月 22日
シンバイオ製薬株式会社

経皮吸収型制吐剤「SyB D-0701」の第Ⅱ相臨床試験を開始

シンバイオ製薬（本社：東京都、社長：吉田文紀、以下、シンバイオ）は、国内第2号品である経皮吸収型制吐剤「SyB D-0701」（グラニセトロン含有パッチ製剤）の国内第Ⅱ相臨床試験を開始しましたのでお知らせします。

本剤は、シンバイオが2007年3月にアベール・ファーマシューティカル社（Abeille Pharmaceuticals Inc.、以下、アベール社）から導入した開発品であり、放射線療法（分割・局所照射）に伴う消化器症状（悪心、嘔吐）を最初の適応症として開発を進めております。一回の貼付により悪心・嘔吐抑制効果が長時間持続し、利便性が高く、がんの治療における放射線の局所照射に伴う悪心・嘔吐の新たな治療薬として患者さんのQOL（Quality of Life）向上に貢献できるものと考えます。

放射線療法は、化学療法や手術とともにがんの治療に広く使われており、大きくは造血幹細胞移植前処置時の全身照射と、特定部位のがんの治療を目的とした局所照射に分けられます。放射線療法に伴う副作用としては、化学療法と同様に消化器症状（悪心・嘔吐）があり、患者さんの負担になっています。現在のところ、放射線の全身照射に伴う悪心・嘔吐については、5-HT₃受容体拮抗剤であるグラニセトロンの注射剤が国内で承認されていますが、局所照射に伴う悪心・嘔吐に対して承認されている5-HT₃受容体拮抗剤はありません。

当社では、一日も早く患者さんに本薬剤をお届けできるよう、今後も開発を推進してまいります。

以上

[参考資料としてシンバイオおよびアベール社の会社概要を添付しています]

参考資料

【会社概要】

1. シンバイオ製薬株式会社

シンバイオ製薬株式会社は、米国アムジェン社元副社長で、アムジェン株式会社（現 武田バイオ開発センター株式会社）の実質的な創業者である吉田文紀が2005年3月に設立した医薬品企業です。経営理念は「共創・共生」（共に創り、共に生きる）で表され、患者さんを中心として医師、科学者、行政、資本提供者を「共創・共生」の経営理念で結び、満たされない医療ニーズに応じてゆくことにより、社会的責任および経営責任を果たすことを事業目的としております。

2. アベール・ファーマシューティカル社 (Abeille Pharmaceuticals Inc.)

アベール社は、2003年に設立された米国ニュージャージー州プリンストンにあるバイオベンチャー企業です。アベール社は、世界の満たされない医療ニーズに応えるため、従来の薬剤の欠点を克服する剤型および投与方法などの開発を行うことにより、新しい治療方法や支持療法などを提供し、患者さんのQOLを高めることを企業使命としています。重点領域は、「癌」治療に伴う「支持療法」、「糖尿病」、「代謝障害」、「中枢神経系」等です。

アベール社についての詳細な情報は<http://www.abeillepharma.com> をご覧下さい。

【本件に関するお問い合わせ先】

シンバイオ製薬株式会社

財務経理部 IR担当

Tel: 03-5472-1123

URL: <http://www.symbiopharma.com/>